



ならっ子だより



守ろう、地域の子どもたち 毎月17日は「子ども安全の日」です。



ならは筆づくり発祥の地として知られているよ。

ならには伝統的な産業や工芸品がたくさんあるよ。



奈良筆

最近(さいきん)は勉強(べんきょう)をしたり手紙(てがみ)を書いたりするときに、墨(すみ)をすり、筆(つが)を使って字(じ)を書く人(ひと)は少(すく)なくなりました。しかし、筆(つが)と墨(すみ)はいちばん身近(みぢか)な文房具(ぶんぼうぐ)として長い間(ながあいだ)人々(ひとびと)に親(あ)まれてきました。今回は数(かず)ある奈良(なら)の伝統(でんとう)的な産業(さんぎょう)・工芸品(こうげいひん)の中から、奈良筆(ならしな)を紹介(しょうかい)します。

クイズ

正解(せいがい)は「学校(がっこう)紹介(しょうかい)」欄(らん)の上(うへ)を見てね。

① 日本(にっぽん)で最も古(もともと)いとされている筆(つが)があるのはどこかな？

② 毎年(まいとし)、春分(しゅんぶん)の日に「筆まつり」が開催(かいさい)される奈良市(ならし)内の神社(じんじや)はどこかな？

○ 奈良筆 ○

ひとくちに筆(つが)といってもさまざまな使われ方(かた)をしていますが、奈良筆(ならしな)は主(おも)に書道用(しよどうよう)の筆(つが)として使われ、「練り混ぜ法(ねりまぜほう)」と呼ばれる方法(ほうほう)で作(つく)られています。練り混ぜ法(ねりまぜほう)は、何種類(なんしゆるい)もの動物(どうぶつ)の毛(け)を配分(けいぶん)と長さ(ながさ)を決めて混ぜ合わせ、時間(じかん)をかけて穂先(ほさき)の毛(け)を組(あ)み上げていく製法(せいぽう)で、これにより、書きやすい筆(つが)が作(つく)られます。

奈良筆づくりは、原料(げんりょう)の仕入れ(し)から筆(つが)が完成(かんせい)するまでの全ての工程(こうてい)を分業(ぶんぎょう)することなく一人(ひとり)で行(おこな)います。奈良筆(ならしな)で文字(もんじ)を書くとき、筆(つが)に込められた熟練(じゆくれん)の技(わざ)と心(こころ)が、作(つく)る人(ひと)から使(つか)う人(ひと)へと伝(つた)わることでしょ(う)う。

○ 筆づくりに使われる動物の毛 ○

筆(つが)の穂(ほ)の素材(そざい)として使(つか)われる動物(どうぶつ)の毛(け)は、ヤギ、ウマ、タヌキ、イタチ、シカ、ネコ、ムササビ、リス、ヒツジ、テンなどです。同じ動物(どうぶつ)の毛(け)でも、毛(け)を刈(か)り取る季節(きせつ)や部位(ぶい)によって硬(かた)さや墨(すみ)の含(あ)み具合(ぐあ)いなどが異(こと)なります。



一本(いっぽん)の筆(つが)の穂先(ほさき)には、それぞれの毛(け)が持つ特徴(とくちょう)が生(な)かされています。

クイズのこたえ

- ① 東大寺(とうだいじ)の正倉院(しょうそういん) 日本(にっぽん)最古(さいこ)の筆(つが)として巻筆(まきふで)が収蔵(しゆざう)されています。作り方(つくりかた)は現在(げんざい)の奈良筆(ならしな)とは異(こと)なり、芯(しん)となる毛(け)に和紙(わし)を巻(ま)き、その周(まわ)りに毛(け)を植(う)えて穂(ほ)を作(つく)っています。
- ② 菅原天満宮(すがわらてんまんぐう) (菅原町) 書(しよ)の三聖(さんせい)の一人(ひとり)であり、学問(がくもん)の神様(かみさま)ともいわれる菅原道真(すがわらのみちざね)がまつられています。

学校紹介

辰市 小学校の巻

創立138年の辰市小学校は平城京の東南に位置し、「今日が楽しくて明日が待ち遠しい学校」を理想の学校像に掲げ、「楽しそう(予感)・楽しい(体感)・楽しかった(実感)」と感じられる学校生活をめざし、職員(師弟同行)・保護者(親業修行)・地域(道親復活)が三位一体となつていきます。

本校では、学校支援ボランティアを「チーム・ドラゴン」と呼び、セーフェイター(見守り)、ガードニング(草花の植栽)、パネルデザイン(壁面制作)、おはなし(読み聞かせ)、スタディー(学習支援)、リフォーム(施設美化)に分かれ、日々活動してもらっています。中には、目立たないように、休日などに来校するボランティアもいます。それはまるで疾風のように現れて、疾風のように去ってゆく正義の味方、月光仮面のようです。

このようなみなさんの良識と献身に包まれて、本校の児童たち(リトル・ドラゴン)は、今日も元気でです。